

千葉県八千代市

# 作山塚群 3号塚・4号塚

— 福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成28年度

社会福祉法人心聖会  
八千代市教育委員会

## 凡　例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成28年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は平成28年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は、福祉施設建設に伴うもので、事業者である社会福祉法人心聖会の委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、作山塚群、所在地は千葉県八千代市小池字作山407番地である。
4. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。  
確認調査 作山遺跡 g 地点、作山塚群 b 地点として実施した。  
期間 平成28年7月20日～8月1日 面積 173m<sup>2</sup>/1,750.09m<sup>2</sup>  
本調査 期間 平成28年10月4日～平成28年10月28日 塚2基 面積375m<sup>2</sup>  
本整理 期間 平成28年11月17日～平成29年3月31日
5. 遺構No.は、数字と記号（アルファベット）の組み合わせで標記した。記号は以下のとおりである。  
塚 T
6. 参考文献は第3章末にある。
7. 出土した遺物のほか、写真・図版等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
8. 本書の図版作成は、宮下聰史・山下千代子が行い、編集・執筆は宮下が担当した。
9. 本書の作成に際し、道上文氏にご協力をいただきました。記して謝意を表します。



八千代市の位置



作山塚群の位置

## 目 次

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の概要	1
第3節 作山塚群の概要	1
第2章 検出された遺構と遺物	
第1節 3号塚(3T)	4
第2節 4号塚(4T)	7
第3章 成果と課題	9
写真図版	11
報告書抄録	

## 挿 図 目 次

第1図 作山塚群における塚の分布	2
第2図 作山塚群と周辺の遺跡	3
第3図 明治時代の作山塚群周辺	3
第4図 作山塚群本調査遺構配置図	4
第5図 3号塚測量図・土層断面図	5
第6図 3号塚完掘状況図・エレベーション図	6
第7図 4号塚出土遺物	7
第8図 4号塚測量図・土層断面図	8

## 写真図版目次

図版1 調査区全景・3号塚	12
図版2 3号塚・4号塚	13

## 第1章 調査経過及び概要

### 第1節 調査に至る経緯

平成28年3月29日付、事業者である社会福祉法人心聖会理事長白鳥征四郎氏から小池字作山の福祉施設建設に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡である作山遺跡の範囲内であり、現況は荒蕪地であった。遺物の散布は確認できなかったが、作山塚群の一部が所在していることが確認できた。このため、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、「周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であることと、「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し、合計1,750.09m<sup>2</sup>について取扱いに係る協議を行った。その結果、白鳥氏は工事を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年7月11日付で白鳥氏から土木工事の届が提出され、市教委は7月20日に確認調査を開始した。

**確認調査** 確認調査は、平成28年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。作山遺跡g地点として対象面積1,750.09m<sup>2</sup>のうち173m<sup>2</sup>を調査した。その結果、発掘調査による新たな遺構・遺物の検出は無く、対象範囲内に作山塚群の塚2基が所在することを確認した。

**本調査** 確認調査の結果、塚2基375m<sup>2</sup>について協議範囲とし、本調査実施に向けて協議を重ねた。市教委は平成28年8月19日付で調査の見積りを事業者に提示し、事業者からも同年8月31日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は同年8月31日付でこれを受託し、同年9月1日付で市・市教委・事業者の三者間で埋蔵文化財の保存措置に関する協定を締結した。本整理について、調査終了後、平成28年度中に実施することとし、同年9月8日付で市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。同年10月4日に市教委が本調査を開始した。

### 第2節 調査の概要

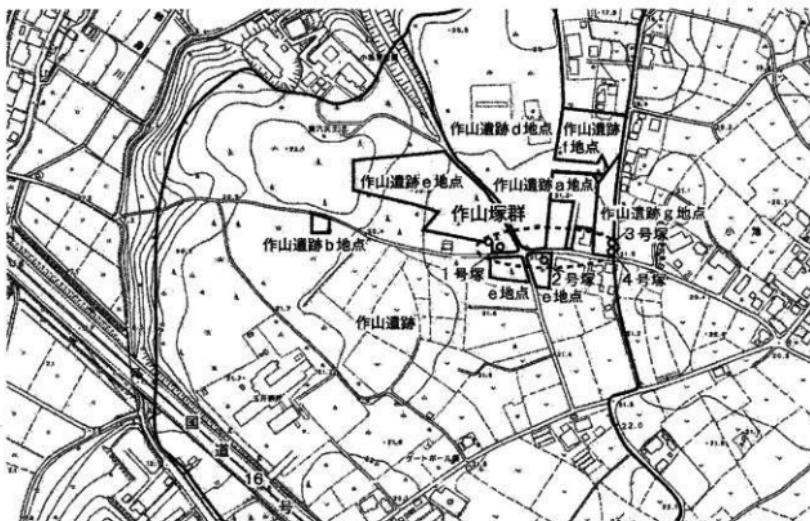
本調査は、塚2基375m<sup>2</sup>を対象として行った。北側にある塚を3号塚、南側を4号塚とし、それぞれの現況地形測量を行った後、発掘調査を開始した。掘削作業は3号塚・4号塚同時にを行い、2基とも小規模な塚であることからセクションベルトを残して基本的に人力で掘削を行い、塚の一部及び周囲は重機による掘削を行った。適宜写真撮影と図面作成、トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。

調査経過は、10月4日機材搬入、環境整備、調査前状況写真撮影。5日～7日地形測量。11日～26日3号塚・4号塚の調査（内18日～20日は重機による掘削）27日～28日埋戻し、機材撤収で調査を終了した。

### 第3節 作山塚群の概要

**遺跡の立地** 作山塚群は、市域の北部、小池地区にある。神崎川を北に臨む台地上平坦面、標高21m前後に立地する。ここには旧道が東西方向に走り、東は佐倉に至る。この旧道に沿うように塚5基が点在する。1号塚と2号塚との間には、旧道と南北方向に走る道との交差点があり、その角には大正2（1913）年造立の道標を兼ねた月待塔（二十三夜大月天王）の角柱型石塔が所在する。作山塚群の範囲の東端には、旧道から分かれて北へ向かう道が延び、3号塚・4号塚はこの道に沿うように南北に並ぶ。

**これまでの調査** 作山塚群は、昭和45年～47年にかけて実施された千葉県立八千代高等学校史学会による遺跡分布調査のなかで発見されたらしい。この分布調査の成果は、昭和47年に八千代市教育委員会から「八千代市遺跡分布調査概要」として刊行された。これに掲載された「小池遺跡、塚2基」が作山塚群に相当すると思われる。これを受けて昭和53年刊行の「八千代市の歴史」では、「小池遺跡、塚2基（江戸時代）」とされている。昭和58年刊行の八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書「八千代の遺跡」で遺跡名の変更が行われ、「遺跡No.3作山塚群、中世塚2基」と報告された。この2基は、東端に並ぶように所在する2基で、3号塚・4号塚であることがわかる。平成15年の作山遺跡の発掘調査報告書では、4基と基数のみ掲載されている。平成22年に1号塚・2号塚の調査が行われ、平成23年に報告書「作山塚群1号塚・2号塚」が刊行されている（市教委2011）。1号塚では封土下より窪み状造構と周溝が検出され、2号塚の封土下より奈良・平安時代の土坑1基が検出された。また、この調査時に、1号塚・2号塚を含め、5基の塚が確認されている。



第1図 作山塚群における塚の分布

**周辺の遺跡** 小池地区では、作山塚群に重複する作山遺跡で発掘調査が行われている。塚群に近いa地点では、造構として古代の方形周溝状造構1基、中世の火葬墓・土坑墓計25基、中世の溝跡1条を検出し、遺物は、弥生土器、中世白磁・青磁・錢貨、板碑片が出土した（市教委2003年）。南側を溝で画された15世紀後半の墓域と考察された。これと塚群との関連に興味が持たれた。b地点は塚群の西方に当たるが、造構・遺物とともに検出されなかった。（市教委2007年）。c地点は、遺跡の南端で、近・現代の溝跡1条と、奈良・平安時代の土器・須恵器小片少量が出土した（市教委2009）。塚群の北側一帯に当たるd地点の確認調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡14軒、古墳時代前期・後期、奈良・平安時代の竪穴住居跡各1軒、中世の土坑3基が検出され、縄文土器（中期）、弥生土器（後期）、古墳～奈良・平安時代土器、中

近世陶磁器などが出土した（市教委2010年）。塚群の内3基を範囲に含むe地点では、弥生土器、奈良・平安時代土師器の出土のみで、遺構は検出されなかった（市教委2011）。a地点の北方のf地点でも、遺構は検出されず、古墳時代土師器、中近世陶磁器などが出土した（市教委2010）。

小池地区の南に隣接する神久保地区には妙正神遺跡がある。平成11年度に確認調査が行われ、遺構は弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡2軒、方形周溝状遺構2基が検出され、遺物は縄文土器（中期）、弥生土器（後期終末）などが出土した。また、神久保塚群が重複しており、中近世の方形塚5基の存在を確認している。



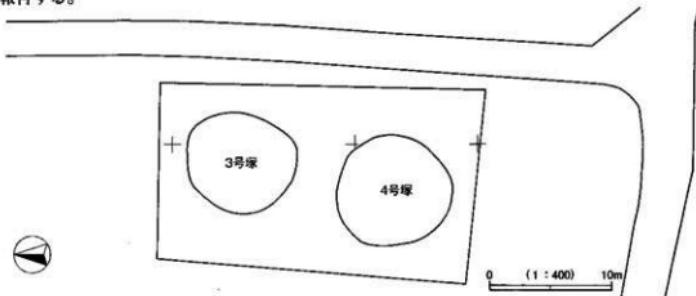
第2図 作山塚群と周辺の遺跡（1：20,000）



第3図 明治時代の作山群周辺（明治15年迅速測図に加筆 1：20,000）

## 第2章 検出された遺構と遺物

今回調査対象としたのは、塚2基である。北側の塚を3号塚、南側を4号塚とした。それについて以下に報告する。



第4図 作山塚群本調査遺構配置図

### 第1節 3号塚（3T）（第5図～第6図）

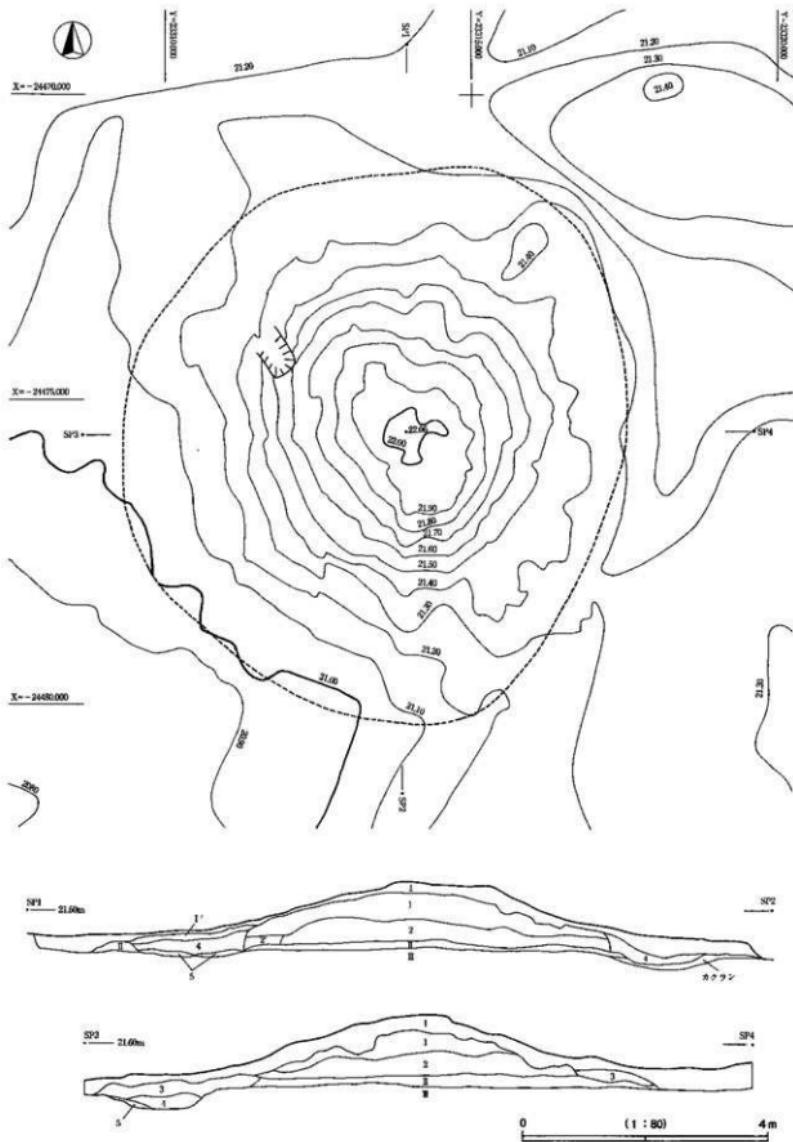
現況観察 直径約8.5m、高さ約1mの円形の塚と認識された。山林を伐採した後の荒蕪地で、塚上及び塚の周囲には切株が存在した。また、塚の東には2～3mほどの大きさの石材等、障害物が置かれている。 現況測量 最高点の標高22.060m、裾部標高20.948m～21.328mで、平均21.138m、比高0.922mであった。 調査方法 十字方向のセクションベルトを設定し、南北方向をSP1～SP2面と、東西方向SP3～SP4面とした。これを基に塚を4区に分け、北東を1区とし、時計回りに2～4区とした。 形態 北西～南東方向がやや長い円形である。 直径 周溝の内側で南北6.12m、東西6.4m、外側で南北8.44m、東西9.6mである。 封土の高さ 旧表土の上面から、最厚部で0.78m、周溝の溝底から1.23mである。 周溝 幅1.04m～1.96m、深さ8cm～31cmと不定で、東側で溝が切れしており、南東側については障害物のため検出できなかった。

封土土層 黒褐色土が主体である。上部は緻密度の低い現在の表土で、竹及び木の根等により擾乱されている。カクラン層の下は、塚の構築のために盛られた土である。上部はロームと黒色土が混じった明褐色土で、ややしまりのある土。下部はローム粒が混じる黒褐色土で、非常にしまりの良い土である。

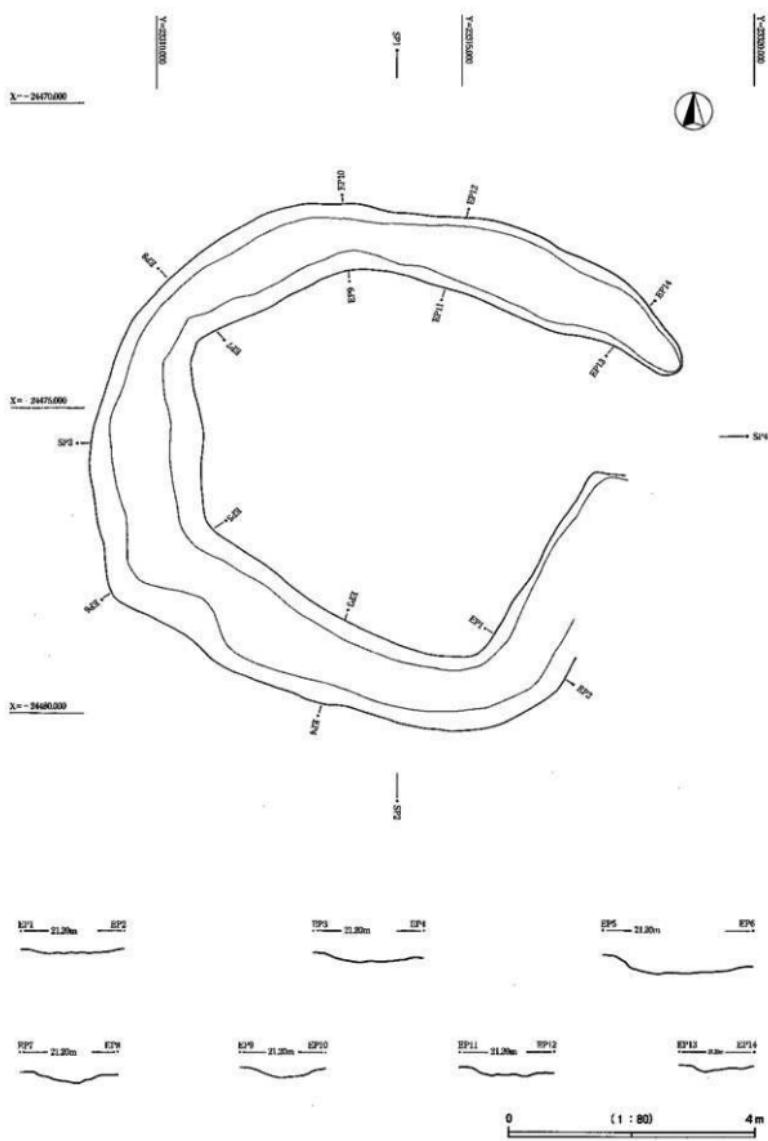
I層（現表土）カクラン層。1層（塚封土）明褐色土 ローム・黒色土混合層でややしまる。2層（塚封土）黒褐色土 黒色土を主体に2mm大のローム粒を含む。非常にしまりが良い。2'層（塚封土）暗褐色土 ローム・黒色土混合層。3層（塚封土崩落土）暗褐色土 黒色土にローム粒を含む。4層（周溝埋土）黒褐色土 黒色土を主体とする中にローム粒が混じる。5層（周溝埋土）褐色土に黒色土粒混入

封土以外の土層 I'層（現表土） 黒色土。II層（漸移層）暗褐色土 テフラ下の層で、ロームと黒色土の混合土。III層（ソフトローム層）褐色土

塚の構築 一帯をソフトローム層付近まで削り整地する。その後黒褐色土を主体とする土で盛り上げ、突き固めた後、周囲を溝状に掘り、さらにその土を盛り上げたものと考えられる。黒褐色土を主体とする盛土は、整地の際に出た土を盛ったものと考える。その上の明褐色のローム・黒色土混合土の盛土部分は、漸移層～ソフトローム層を掘りこんで周溝を構築した際の土が盛り上げられていると考える。



第5図 3号塚測量図・土層断面図



第6図 3号塚完掘状況図・エレベーション図

## 第2節 4号塚（4T）（第7図～第8図）

**現況観察** 直径約9.5m、高さ約1mの円形の塚と認識された。現況は3号塚と同様山林伐採後の荒蕪地で、塚上にも切株が存在する。**現況測量** 最高点の標高21.880m、裾部標高20.712m～21.148mで、平均20.930m比高0.950mであった。**調査方法** 十字方向のセクションベルトを設定し、南北方向をSP1～SP2面と、東西方向をSP3～SP4面とした。これを基に塚を4区に分け、北東部分を1区とし、時計回りに2～4区とした。**形態** ほぼ円形である。**直徑** 南北9.45m、東西8.96mである。封土の高さ旧表土の上面から、最厚部で0.9mである。**周溝** 平面的なプランとして確認できなかったが、セクション面の観察で、わずかに周溝の様な落ち込みが見られる。竹の根等による擾乱が深く、人為的な掘り込みであるかどうかは判断できなかったが、周溝が存在していた可能性がある。

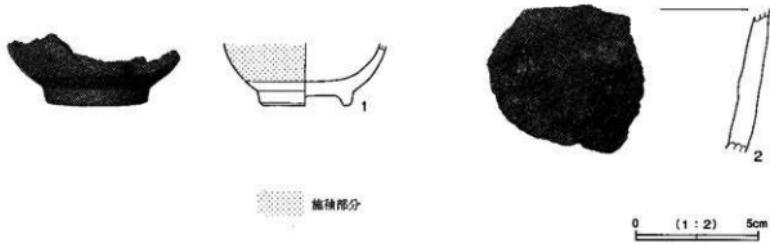
**封土土層** 3層同様、黒褐色土が主体である。I層は現表土で、竹及び木の根等によるカクラン層である。竹の根による擾乱が深くまで及んでいる。SP1～SP2面の観察で、塚封土の外縁でII層が途切れれる箇所があり、周溝の様にも見える。

I層（現表土）根によるカクラン層。1層（塚封土）明褐色土 ローム・黒色土混合層でややしまる。2層（塚封土）黒褐色土 黒色土を主体に2mm大のローム粒を含む。3層（塚封土崩落土）暗褐色土 黒色土にローム粒を含む。

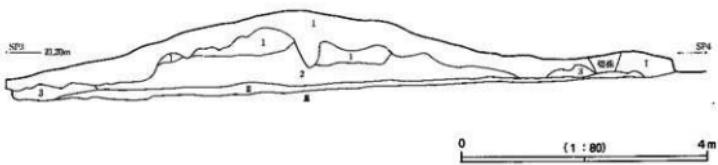
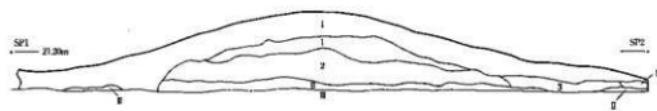
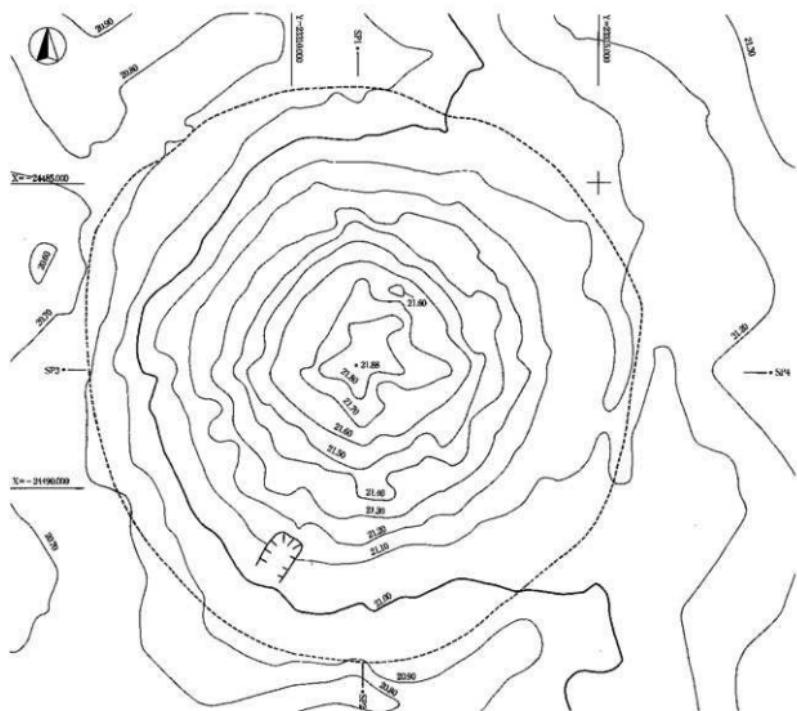
**封土以外の土層** I'層（現表土）黒色土。II層（漸移層）暗褐色土 ロームと黒色土の混合土。テフラ下の層。III層（ソフトローム層）褐色土。

**塚の構築** 封土の堆積は3号塚同様であり、同様の構築方法が考えられる。周溝は検出されなかったが、周囲をソフトローム層まで掘り下げ、その上で盛り上げている。

**出土遺物** 3区の掘削中に表土下部から近世陶器1点と、1区掘削中に2層黒褐色土中より奈良・平安時代の土師器1点が出土した。1は近世陶器で茶碗の底部片。底部径3.4cm。外面底部付近を除いて施釉されている。2は奈良・平安時代の土師器で甕又は瓶の胴部片。特徴的なミガキ調整から常総型甕の破片と考えられる。



第7図 4号塚出土遺物



第8図 4号塚測量図・土層断面図

## 第3章 成果と課題

3号塚・4号塚ともに、同じような土層の堆積が見られ、近い時期に築造された可能性がある。どちらの塚も、塚の範囲を含めた一帯を、ソフトローム層近くまで掘り下げることで簡易な整地を行い、それにより出た土を盛り上げている。厚い堆積ではあるが非常にしまりの良い土である。その上にさらに盛られた土については、ソフトローム層を掘削した上が混ざっていると考えられる。3号塚で、ソフトローム層を掘りこんで構築された周溝が検出されたが、4号塚においては、土層の観察から周溝があった可能性を残すものの、検出することはできなかった。遺物については塚の築造に関する遺物の出土ではなく、時期を特定することはできないが、4号塚の現表土中より近世陶器が出土しており、少なくとも近世以前の塚であることがいえる。同じく4号塚封土中より出土した奈良・平安時代の土師器片については、築造時に混入したものであろう。

作山塚群は、過去の調査において少なくとも塚5基の存在が確認されており、今回の調査により、現存する塚は1基となった。この1基は、作山塚群の中で最も西に位置し、平成23年に行われた作山塚群の調査に向けての協議の中で、事業範囲から外されたことで残存した経緯を持つ。

調査された4基について、いずれの塚からも埋納物等、塚の築造の時期や性格を示す遺物の出土はなかった。塚の性格を考える上で、旧道に沿って分布する立地や、当該地域に残る伝承など、埋蔵文化財以外のアプローチも必要であろう。

### 参考文献

- 八千代市教育委員会（1972年）『八千代市遺跡分布調査概要』
- 八千代市史編さん委員会（1978年）『八千代市の歴史』
- 八千代市教育委員会（1983年）『八千代市の遺跡－千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書－』
- 八千代市教育委員会（2003年）『千葉県八千代市作山遺跡発掘調査報告書』
- 八千代市史編さん委員会（2006年）『八千代市の歴史』資料編 近代・現代Ⅲ石造文化財
- 八千代市教育委員会（2007年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』
- 八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』
- 八千代市教育委員会（2010年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成21年度』
- 八千代市教育委員会（2011年）『千葉県八千代市作山塚群1号塚・2号塚－駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』

写 真 図 版

図版 1



(1) 調査区全景 調査前状況



(2) 3号塚調査前状況



(3) 3号塚土層断面 S P 1側



(4) 3号塚土層断面 S P 2側



(5) 3号塚上層断面 S P 3側



(6) 3号塚上層断面 S P 4側



(7) 3号塚周溝完掘状況 1



(8) 3号塚周溝完掘状況 2



(9) 3号塚2区周溝完掘状況



(10) 4号塚調査前状況



(11) 4号塚土層断面SP 2側



(12) 4号塚土層断面SP 1側



(13) 4号塚土層断面SP 3側



(14) 4号塚土層断面SP 4側



(15) 調査区全景 各区完掘状況 - 手前4号塚



(16) 調査区全景 完掘状況

## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし さくやまつかぐん 3ごうつか・4ごうつか						
書名	千葉県八千代市 作山塚群 3号塚・4号塚						
調査名	福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
編著者名	宮下聰史						
編集機関	八千代市教育委員会						
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047(483)1151代表						
発行年月日	平成29年3月31日						

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項			
			市町村	遺跡番号	北緯	東経				
作山塚群	塚	中・近世	小池字作山407番地	12221	3	35度 46分 44秒	140度 5分 28秒	20161005 ～ 20161028	375	福祉施設建設
要 約	作山塚群 塚2基の所在を確認し、調査した。遺物の出土は乏しく、匯納物等の塚に伴う遺物はなかったが、4号塚封土中より奈良・平安時代の土師器が出土し、表土中より近世陶器が出土し、少なくとも近世以前の墓造ととらえることができた。									

千葉県八千代市  
**作山塚群 3号塚・4号塚**  
 — 福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

発 行 日 平成 29 年 3 月 31 日

編 集 八千代市教育委員会 教育総務課

〒 276-0045 八千代市大和田 138-2

TEL 047-483-1151

発 行 社会福祉法人 心型会

印 刷 金子印刷企画